

令和3年度
事業報告書



社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会

理念

尾鷲市のだれもが
安心して生活できるまちづくりをすすめていく

職員心得

- 一、笑顔であいさつ
- 一、責任ある行動
- 一、思いやりを持って接する

目次

I	地域福祉課	
	総務・福祉係.....	1
II	生活支援課	
	生活支援係.....	20
III	高齢者支援課	
	地域包括支援センター.....	30
IV	障がい支援課	
	紀北地域障がい者総合相談支援センター結.....	41
V	居宅介護支援課	
	居宅介護支援事業所.....	50
VI	訪問介護事業課	
	訪問介護事業所.....	53
VII	訪問入浴事業課	
	訪問入浴事業所.....	56
VIII	尾鷲通所介護事業課	
	尾鷲社協デイサービスセンター“いきいき”.....	57
IX	輪内高齢者サービスセンター	
	輪内デイサービスセンター.....	60

I 地域福祉課

総務・福祉係

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり理事会並びに評議員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 令和3年6月10日 出席者 11名

- 議題
- ・ 令和2年度事業報告(案)について
 - ・ 令和2年度決算(案)について
 - ・ 令和3年度【第1回補正予算】資金収支予算(案)について
 - ・ 評議員選任候補者の推薦(案)について
 - ・ 評議員選任・解任委員の選任(案)について
 - ・ 評議員選任・解任委員会の招集(案)について
 - ・ 令和3年度定時評議員会の招集(案)について

- 報告
- ・ 社会福祉充実残額について
 - ・ 職員就業規則等の変更について

第2回 令和3年6月25日 出席者 12名

- 議題
- ・ 会長の選任について
 - ・ 副会長の選任について
 - ・ 常務理事の選任について

第3回 令和3年12月2日 出席者 14名

- 議題
- ・ 令和3年度【第2回補正予算】資金収支予算(案)について
 - ・ 令和3年度第2回評議員会の招集(案)について

第4回 令和4年3月10日 出席者 12名

- 議題
- ・ 令和3年度【第3回補正予算】資金収支予算(案)について
 - ・ 令和4年度事業計画(案)について
 - ・ 令和4年度【当初予算】資金収支予算(案)について
 - ・ 令和3年度第3回評議員会の招集(案)について

(2) 評議員会

第1回 令和3年6月25日 出席者 26名

- 議題 ・ 令和2年度事業報告(案)について
・ 令和2年度決算(案)について
・ 令和3年度【第1回補正予算】資金収支予算(案)について
・ 理事の選任(案)について
・ 監事の選任(案)について

報告 ・ 社会福祉充実残額について

第2回 令和3年12月10日 出席者 28名

- 議題 ・ 令和3年度【第2回補正予算】資金収支予算(案)について

第3回 令和4年3月18日 出席者 28名

- 議題 ・ 令和3年度【第3回補正予算】資金収支予算(案)について
・ 令和4年度事業計画(案)について
・ 令和4年度【当初予算】資金収支予算(案)について

(3) 監事監査

- ① 令和3年5月18日 監事2名
・ 令和2年度の事業及び決算についての監査
② 令和3年11月30日 監事2名
・ 令和3年4月～令和3年9月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ① 令和4年2月8日 財政援助団体等監査(尾鷲市監査委員事務局)

2. 事務局体制の強化

(1) 職員体制の強化

- ① 令和4年度職員体制の確保に向け、採用試験を実施
・ 採用者数 嘱託職員 2名
(令和3年度退職者 正規職員1名、嘱託職員4名)
② 感染症予防対策として、全職員に対しPCR検査を実施

(2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加

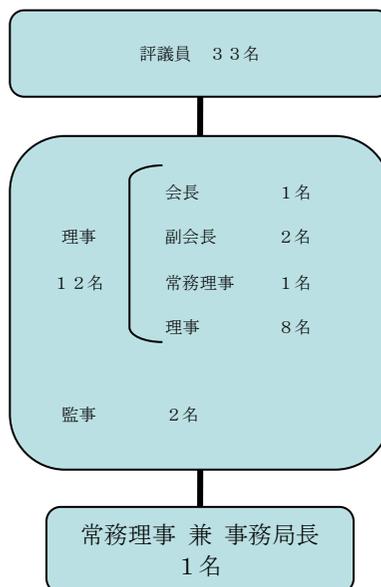
資格取得の状況	社会福祉士	1名
	社会福祉主事	1名
	主任介護支援専門員	1名
	介護職員初任者研修課程修了	4名

(3) 活動基盤の改善・充実

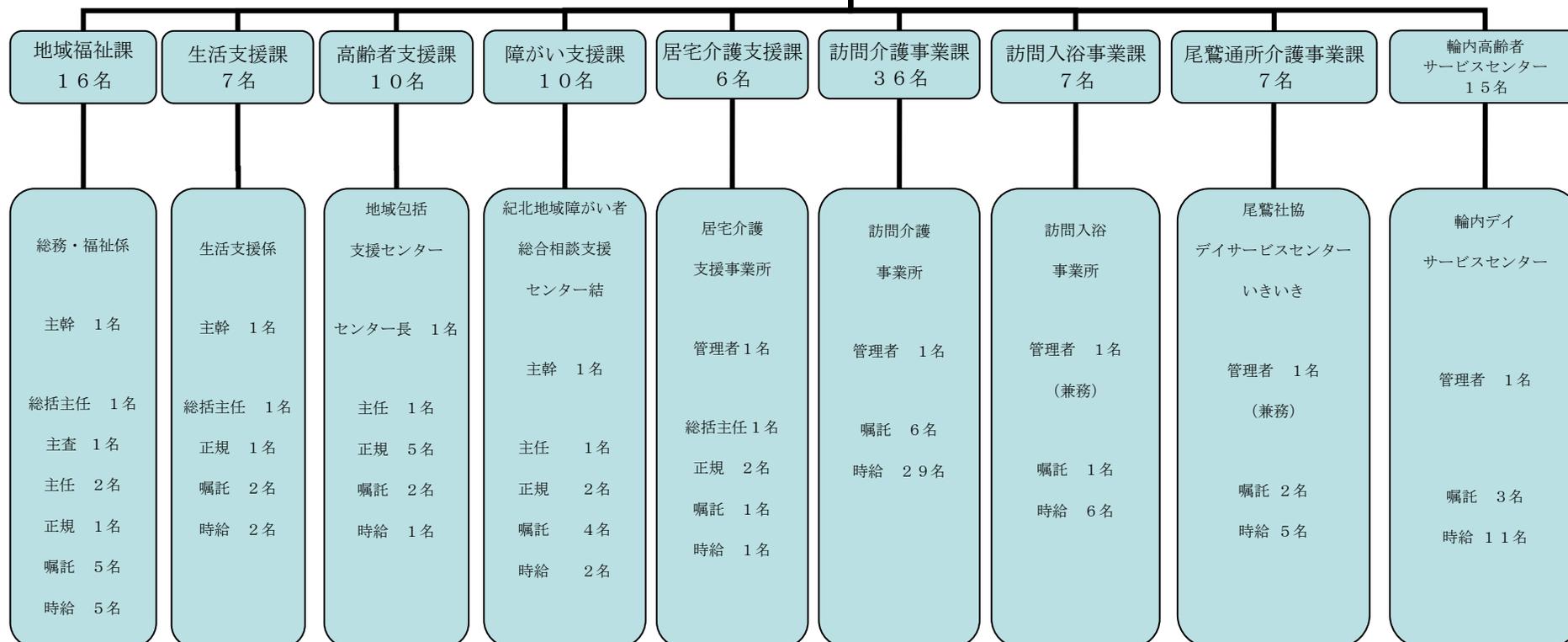
会計・税務顧問契約の締結

関係法令等の改正により、高まる会計・税務の専門性に対応するため、引き続き税理士法人と顧問契約を締結し、適正な運営に努めた。

令和3年度 尾鷲市社会福祉協議会
業務体制 (令和4年3月末日現在)



職員数	115名
(内訳)	
正規職員	25名
嘱託職員	28名
時給職員	62名
〈前年度職員数	117名〉



3. 地域福祉財源の確保

(1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保

(2) 自主財源の確保

① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】一般預託	11 件	339,656 円
指定預託	0 件	0 円
合 計	11 件	339,656 円

※前年度合計 9 件 554,000 円

② 社協賛助会費制度の運営

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、民生委員児童委員、地区福祉委員会などの協力、連携により賛助会費の募集を行い、地域福祉活動の財源確保に努めた。

(単位：円／件)

	令和 3 年度		令和 2 年度	
	金額	件数	金額	件数
賛助会員	1,078,000	1,012	538,000	482
特別会員	305,000	39	265,000	36
計	1,383,000	1,051	803,000	518

4. 福祉団体活動支援

(1) 尾鷲市老人クラブ連合会の活動支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに、社会奉仕活動への積極的な参加促進を支援した。

① 老人クラブ連合会活動の支援

19 クラブ・会員数 865 名

② 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催

12 講座 170 名 (前年度 14 講座 0 名)

(2) 尾鷲市遺族会の活動支援

遺族会の活動を支援した。

① 尾鷲市戦没者追悼式 (尾鷲市との共催)

開催日：令和 3 年 11 月 6 日

場 所：尾鷲市民文化会館

参加者：20 名

5. 苦情解決事業

苦情に対して社会性・客観性を確保するため第三者委員会を設置し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を行うため、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

(1) 苦情解決体制

苦情解決責任者 事務局長
苦情受付担当者 総務・福祉係長
第三者委員 3名委嘱

(2) 苦情内容・苦情件数

(単位：件)

苦情の内容	令和3年度	令和2年度
ケアの内容に関わる事項	0	1
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他 (職員の言動・交通マナー・施設管理)	0	0
本会以外への苦情等	0	0
合計	0	1

6. マイクロバス貸出事業

マイクロバスを貸出して、各種団体の活動支援を行った。

利用団体：9団体（前年度 6団体）

利用回数：延べ14回（前年度 延べ12回）



7. ご当地キャラクター

尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこヤーヤにゃんを用いて尾鷲の観光PRをするとともに、福祉へのイメージアップを図った。

(1) 出演

職員がスタッフとして市内外のイベント出演。

出演回数：0回（前年度0回）

(2) 貸出

着ぐるみの貸出しを行った。貸出回数：2回（前年度2回）

(3) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。件数：8件（前年度4件）

8. 地域福祉活動の推進

(1) 地域福祉活動支援事業

① 地区福祉委員会の活動基盤強化

ア. 活動相談

イ. 研修交流会の開催

内 容：コロナ下における地区福祉活動

開催日：令和3年12月1日

会 場：尾鷲市福祉保健センター・三木里コミュニティセンター

参加者：21名



ウ. 地域課題解決に向けた支援

エ. 活動の周知啓発

オ. 助成事業（基本助成、活動助成、新規結成助成）

◇ 基本助成（地区福祉委員会の運営費および活動費として）

助成数・助成額：12団体 240,000円

◇ 活動助成（各地区独自の活動費として）

助成数・助成額：13団体 396,896円

② ふれあいサロン活動の推進

ア. おしゃべりほのぼのサロン事業

高齢者の生きがいがづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロンを職員とボランティアの協力で実施した。

のべ参加者数

（単位：人）

	尾鷲	九鬼	早田	須賀利	合計
参加人数	32	30	25	22	109
前年度	41	34	18	34	127

イ. 百寿雀サロン事業（共同募金配分事業）

百寿雀を活用したふれあいサロンづくりを模索するため、体験会を実施した。

参加人数：のべ121人（12回）



ウ. 助成事業（ふれあいサロン助成）

ふれあいサロン活動に取り組む団体に対して助成金による活動支援を行った（共同募金配分事業）。

助成額：36,058円（2団体）

活動実績

実施団体	回数	のべ参加人数
三木浦地区福祉委員会	1	10
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	5	87

※ 新型コロナウイルスの影響で活動の中止が多かった



③ ふれあい・見守り訪問活動の推進

ア. 助成事業（あったかふれあい訪問活動助成、友愛活動助成）

☆ あったかふれあい訪問活動助成

地区福祉委員会が行うふれあい訪問活動に対し、助成金による活動支援を行い、住民主体による福祉ニーズの発見を促進した。

助成額：723,967円（11地区）

活動実績

地区福祉委員会	回数	のべ訪問件数
三木浦地区福祉委員会	2	260
倉ノ谷地区福祉委員会	2	182
三木里地区福祉委員会	3	284
古江地区福祉委員会	3	370
坂場地区福祉委員会	4	483
曾根地区福祉委員会	1	42

宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	4	290
泉地区福祉委員会	2	109
新田地区福祉委員会	2	230
なみき地区福祉委員会	2	463
天満地区福祉委員会	3	197
計	28	2,910



◇ 友愛活動助成

尾鷲市老人クラブ連合会が行う友愛活動に対し、助成金による活動支援を行った（共同募金配分事業）。

助成額：133,000円

活動実績

取り組みクラブ数	のべ訪問件数
19クラブ	584名

④ 子育て支援事業の推進

ア. 子育て応援イベントの開催（共同募金配分事業）

子育てめっけもん広場のオープニングイベントとして『あそびの広場』を開催し、巨大迷路やパネルシアター、クリスマス飾りづくりなどを行った。

開催日 令和3年12月11日（土）

会場 尾鷲市福祉保健センター1階

参加者 65名



イ. 子育てグッズのリサイクル（共同募金配分事業）

◇ 子育て用品「無料レンタル」

不要となったチャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドの寄付を受け、必要とする方に無料で貸し出した。

利用件数：31 件（前年度 18 件）

◇ 子育て用品の譲り合い仲介

チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッド以外の不要子育て用品について、譲り合いの仲介を行った。

仲介件数：4 件（前年度 1 件）

◇ 子育てめっけもん広場

不要となった子育て用品の譲り合いを支援するため、交換会「子育てめっけもん広場」を開催した。

第1回 令和3年6月29日（火）～7月8日（木）

提供者 22名

来場者 76名

第2回 令和3年12月11日（土）～17日（金）

提供者 19名

来場者 122名



⑤ 療育支援事業の推進

ア. 療育教室（すまいる教室）の開催

- ・ 1時間30分～45分の教室を実施し、障がい児や発達の気になる子どものグループ療育支援を行った。
- ・ 保育士を中心に、言語療法士など専門職による専門療育の機会を提供した。
- ・ 新型コロナウイルスの影響により4月～10月および2月は30分の時間短縮で実施（9月は休止）。感染対策として大人はマスク等を使用し、換気や消毒、検温を行った。
- ・ 未就学児は親子参加を基本とし、保護者の孤立を防ぐとともに相談や交流の機会とした。

参加状況

（単位：人）

区分	実人数	のべ人数
尾鷲市	28	386
紀北町	11	154
計	39	540

(2) ボランティア・市民活動センター事業

①ボランティア団体の活動支援

- ア. 活動相談：4 件
- イ. 研修交流会の開催
新型コロナウイルスの影響で中止した。
- ウ. 地域課題解決に向けた支援

◇ 住民参加型生活応援事業「助っと」の立ち上げ

住民有志9名とともに助け合いのしくみを立ち上げ、試験的に買い物支援、ごみ出し支援を実施した（共同募金配分事業）。

3月31日現在

会員登録（単位：人）	支援会員	9
	利用会員	10
実施状況（単位：回）	買い物代行支援	8
	ごみ出し支援	182



◇ 輪内買い物支援「いこらい」実証実験

曾根町、梶賀町にて住民ボランティアと協働した買い物支援の実証実験を実施した（共同募金配分事業）。

3月31日現在（単位：人）

利用登録	曾根町	9
	梶賀町	11
	計	20
実施状況	1月21日	5
	2月18日	10
	3月18日	11
	計	26



エ. 助成事業（ボランティア活動助成）

登録ボランティア団体を対象に、ボランティア・市民活動の促進及び充実を図ることを目的として助成金による支援を行った。

助成額：140,000円（7団体）

活動実績

助成団体	内容
尾鷲市食生活改善推進協議会	シニアカフェ、食の啓発
オンツツジを育てる会	環境保全活動
福祉の店実行委員会	障がい者の社会参加
みえ防災C o おわせ	防災啓発
スポレクおわせ	社会参加促進・居場所づくり
いこいの場みさき	ふれあいサロン
青少年育成三木里町民会議	世代間交流

② ボランティア活動保険の加入補助

ア. 助成事業（ボランティア活動保険加入助成）

登録ボランティアを対象にボランティア活動保険の加入促進を目的として助成金による支援を行った。

助成額：34,600円（346名）

加入数：520名

③ ボランティア育成

ア. 災害ボランティア講座（共同募金配分事業）

災害ボランティアコーディネーターの資質向上を目的に、ボランティア講座を開催した。

開催日：令和3年11月28日（日）

会場：尾鷲市中央公民館3階講堂

内容：屋根が被災した際のブルーシート張り支援について

講師：災害ボランティア愛・知・人 代表 赤池博美氏

参加者：40名



イ. 生活支援ボランティア育成講座（共同募金配分事業）

移動支援の担い手育成を目的に、地域支え合いドライバー養成講座を開催した。

開催日：令和4年1月26日（土）・27日（日）・3月2日（水）

会場：尾鷲市福祉保健センター

内 容：福祉有償運送運転者・セダン等運転者講習（講義＋実技）
講 師：全国移動サービスネットワーク認定講師
参加者：16名



④災害ボランティアセンターの基盤強化

ア. 災害ボランティアセンター設置運営訓練

東紀州5市町の社会福祉協議会で協力し、新型コロナウイルス等感染症に配慮した災害ボランティアセンターの設置運営に関する研修及び訓練を行い、職員のスキルアップや市民と協働した運営体制の構築、見直しを行った。

第1回 開催日：令和3年7月30日（金）

場 所：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール

内 容：災害ボランティアセンター開設判断について

講 師：みえ防災市民会議 議長 山本康史 氏

参加者：25名

第2回 開催日：令和3年11月2日（火）

内 容：災害ボランティアの受け入れについて

場 所：御浜町福祉健康センター研修室

講 師：みえ防災市民会議 議長 山本康史 氏

参加者：12名



イ. 災害ボランティアセンター関係者会議

大災害時の広域連携を想定して、東紀州ブロック社協広域連携協議会を立ち上げ、災害ボランティアセンター機能の充実に向け、現在の課題やこれからの取り組みについて意見交換する場を作った。

第1回 開催日：令和3年7月2日（金）

会 場：熊野市保健福祉センター

第2回 開催日：令和4年1月24日（月）

会 場：ZOOM ミーティング（オンライン）



⑤福祉教育の推進

ア. 子ども福祉スクール事業（共同募金配分事業）

◇ 手話体験教室（小学生対象）

開催日：令和3年8月7日（土）

会 場：尾鷲市福祉保健センター

参加者：13名



◇ ボランティアスクール（中高生対象）

新型コロナウイルスの影響で中止した。

イ. 福祉教育プログラムの提供

福祉協力校に対して、福祉教育プログラムを作成し、様々な授業で活用した。



ウ. 福祉作品コンクールの募集

福祉教育の一環として、小・中学校生を対象に、福祉をテーマにした『標語』とその標語に込めた『想い』を募集し、入賞作品を表彰した（共同募金配分事業）。

応募総数 551 点

表彰者 小学校低学年の部 3名 小学校中学年の部 3名
 小学校高学年の部 3名 中学校の部 3名



⑥助成金による福祉教育の推進

ア. 助成事業（福祉教育助成金）

福祉協力校〈小学校5校、中学校2校、高校1校、特別支援学校1校〉を指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った（共同募金配分事業）。

助成金額 6校 237,940円

活動実績

福祉協力校	内容
尾鷲小学校	手話体験、環境美化、募金活動
宮之上小学校	—
矢浜小学校	施設慰問、地域交流
向井小学校	施設慰問、地域交流
賀田小学校	環境美化、地域交流
尾鷲中学校	—
輪内中学校	地域交流、人権教育
尾鷲高校	—
くろしお学園おわせ分校	環境美化・清掃、地域交流

(3) 生活支援体制整備事業（尾鷲市からの受託事業）

① 生活支援コーディネーターの配置（2名）

ア. 活動内容

（単位：回）

活動内容	回数
アセスメント（情報収集・課題分析）	28
相談対応	51
連絡・調整	27
支援活動のコーディネート	53
地域での協議	26
関係機関との協議	23
周知・啓発	6
人材育成	6
研修・視察	14

その他	30
のべ活動回数	264

② 地域における協議体制の整備

市内を第一層（尾鷲市全体）、第二層（日常生活圏域）、第三層（各町）に分け、それぞれの階層で地域の生活支援を協議する場を整備した。

ア. 地域支え合い応援隊会議の運営（第一層協議体）

尾鷲市全体のことを話し合う協議会として、地域支え合い応援隊会議を組織し、生活支援体制整備の現状確認や今後の方針について協議した。

	開催日	協議内容
第一回	令和3年 6月15日（火）	✓ 高齢者の移動手段の確保の課題について
第二回	令和3年 10月7日（木）	✓ 移動支援の方向性について ✓ 住民参加型生活支援サービスについて
第三回	令和4年 1月25日（火）	✓ 住民参加型生活応援事業「助っと」の取り組みについて ✓ 輪内買い物支援「いこらい」実証実験について
第四回	令和4年 3月29日（火）	✓ 生活支援体制整備の方針について



イ. わごころ会議の運営（第二層協議体）

日常生活圏域（旧町内・周辺地区）ことを話し合う協議会として、わごころ会議を組織し、具体的な生活支援活動について協議した。

第1回 内容：住民主体のごみ出し支援の取り組みについて

開催日：令和3年6月21日（月）輪内地区

令和3年6月22日（火）尾鷲北地区

令和3年6月23日（水）尾鷲南地区

- 第2回 内容：住民参加型生活支援のしくみづくりについて
 開催日：令和3年11月1日（月）輪内地区
 令和3年11月4日（木）尾鷲北地区
 令和3年11月10日（水）尾鷲南地区



ウ. 地域福祉懇談会の運営（第三層協議体）
 より身近な地域で話し合う協議会として、地区懇談会を開催し、具体的な生活支援活動について協議した。

- ③ 地域の支え合い活動に関する周知・啓発
 ア. 支え合い講演会の開催
 新型コロナの影響で中止した。
 イ. 地域活動の紹介通信「わごころ通信」の発行（10月・3月）
 全戸を対象に地域における支え合い活動の見える化を目的として、地域活動を紹介する「わごころ通信」を発行した。
 第5号：百寿雀を使ったサロン活動、買い物支援の模索状況の紹介
 第6号：住民参加型生活支援「助っと」、輪内買い物支援「いこらい」実証実験の紹介

(4) 援護事業

- ① ひとり親世帯就学応援事業
 ひとり親家庭の小学校卒業児童に対し、中学校への就学応援品として図書カードを贈呈した（共同募金配分事業）
 対象児童 19名（前年度 25名）

② 災害義援金・海外救援金の募集 (単位：円)

義援金・救援金	寄付額
平成30年7月豪雨災害義援金（西日本豪雨）	7,393
令和2年7月豪雨災害義援金（球磨川流域）	8,530
令和3年7月大雨災害義援金（熱海ほか）	1,741
令和3年8月大雨災害義援金（九州・島根）	56,125
令和3年台風第9号等大雨災害義援金（青森）	1,430
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	0
ウクライナ人道危機救援金	82,050
合計	157,269

※日本赤十字社を通じて寄付

③ 災害時援護事業

市内で発生した火災の被災世帯に対し、救急セットと毛布、見舞金を配布した。

被災件数：1件（1世帯）

配布物：救急セット1個 毛布2枚 見舞金

(5) 広報啓発事業

① 尾鷲市社会福祉大会（尾鷲市との共催）

多年にわたり社会福祉事業・社会福祉活動に功績のあった方々を顕彰するとともに、社会福祉のさらなる充実を目指すことを目的に、尾鷲市社会福祉大会を開催した。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主催および被表彰者、並びに来賓のみの少人数で開催した。

開催日：令和3年11月27日（土）

場 所：尾鷲市中央公民館

内 容：顕彰（尾鷲市市長表彰9名、尾鷲市社会福祉協議会会長表彰17名）



② 広報紙「おわせ社協」の発行

年4回（5月・7月・10月・3月）広報紙「おわせ社協」を発行した。

③ ホームページ、Twitter、Facebookでの情報発信

ホームページ、Twitter、Facebookを活用し、情報発信を行った。

(6) 募金活動支援

① 赤い羽根共同募金（三重県共同募金会）への協力

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者と共に、募金活動に協力した。

一般募金（運動期間：令和3年10月1日～令和4年3月31日）

募金実績

（単位：円）

	令和3年度	令和2年度	比較
目標額	2,428,100	2,607,100	▲179,000
実績額	2,250,988	2,336,056	▲85,068
達成率	92.70%	89.60%	3.10%

募金種別による内訳

(単位：円)

	令和3年度		令和2年度		比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別	1,297,037	3,301	1,306,533	3,325	▲9,496	▲24
法人	618,960	104	754,640	108	▲135,680	▲4
街頭	47,702	5	0	0	47,702	5
学校	47,978	6	45,120	5	2,858	1
職域	142,018	25	148,234	26	▲6,216	▲1
イベント	0	0	0	0	-	-
個人	2,100	1	7,500	2	▲5,400	▲1
その他	95,139	36	74,029	40	21,164	▲4
計	2,250,988	3,478	2,336,056	3,506	▲85,068	▲28

② 日赤募金（日本赤十字社三重県支部）への協力

日赤奉仕団（尾鷲市婦人の会連絡協議会）、自治会等の協力を得て、募金運動に協力した。

社資増強運動期間：令和3年5月1日～5月31日

募金実績

(単位：円)

	令和3年度	令和2年度	比較
目標額	2,570,000円	2,629,000円	▲59,000円
実績額	1,874,339円	1,585,170円	289,169円
達成率	72.90%	60.20%	12.70%

Ⅱ 生活支援課

生活支援係

1. 生活相談事業

(1) 総合相談事業

① 総合相談事業

「だれもが安心して生活できるまちづくりを進めていく」という本会理念のもと、各課・関係機関と連携し、相談者に寄り添い、相談に対応した。

金銭貸付、家計改善支援、食料支援等あらゆる支援を講じるとともに、他機関へのつなぎなども合わせ、個別課題に対応した支援を行い、課題を解決するなど効果を上げることができた。

(ア) 相談実績

相談件数：78件（相談者の属性や内容に重複あり）

（単位：件）

属性	令和3年度	令和2年度
困窮者	66	124
高齢者	0	1
障がい者	1	0
その他	11	1
計	78	126

(単位：件)

相談内容	令和3年度	令和2年度
自立生活に関すること	12	17
家計管理に関すること	8	8
貸付に関すること	41	99
借金・滞納に関すること	9	2
成年後見制度に関すること	2	1
日常生活自立支援事業の利用	0	5
消費生活に関すること	0	0
虐待・権利侵害に関すること	1	3
生活支援に関すること	5	4
地域・人間関係に関すること	7	1
仕事に関すること	9	7
引きこもりに関すること	0	0
その他	0	0
計	94	147

2. 生活再生事業

(1) 生活再生相談

① 生活困窮者自立相談支援事業（市受託事業）

生活に不安を抱えている方からの相談を受け、どのような支援が必要か一緒に考え、生活困窮状態から脱却するための計画を立て、解決に向け本人に寄り添い、支援を行った。

特に課題が山積しどこに相談してよいかわからない方、また孤立していて相談する人がいない方などに対し、当事業が効果を上げることができた。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和3年度	令和2年度
相談件数	72	135
支援計画策定	29	35
のべ対応 (支援申込み前含む)	1389	1205

(単位：件)

対応内容	令和3年度	令和2年度
電話相談	726	520
訪問・同行支援	250	237
面談	253	260
所内会議	50	120
支援調整会議（プラン策定・評価）	85	62
その他関係機関との会議	6	0
関係機関との照会・協議	3	1
その他	16	5
計	1389	1205

(イ) 支援体制の構築

ア 周知啓発活動

- ・ 相談窓口の案内チラシ配布および設置

福祉保健課、福祉保健センター、税務課、市民サービス課、水道部各コミュニティセンター、尾鷲小学校、紀北信用金庫、百五銀行、三十三銀行、郵便局

イ 関係機関との会議

- ・ 尾鷲公共職業安定所との連絡会議

新型コロナウイルス感染対策のため書面により実施した。

ウ 支援調整会議（開催回数：12回）

② 生活困窮者家計改善支援事業（市受託事業）

貸付相談に来所された方を含め、家計管理に問題がある方を対象に、収支状況の見える化と計画的な家計プランを一緒に作成し、相談者とともに家計管理を行った。状況次第により、自己破産手続きの支援を行うなどあったが、多くの方が滞納を解消し、生活再建につながった。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和3年度	令和2年度
相談件数	50	101
支援計画策定	13	13

(イ) 対象者が抱える課題(支援決定者のみ)

(単位：件)

	令和3年度	令和2年度
税金の滞納	8	7
医療費の滞納	2	4
公共料金の滞納	6	5
債務(銀行や消費者金融など)	7	7
家計管理の問題	11	11
低所得	6	8
計	40	42

③ アウトリーチ等強化による自立相談支援事業(市受託事業)

経済的に困窮し、様々な生活課題を抱えるひきこもり状態にある方、長期無業者など、長期支援が必要な方に対し、自宅を訪問し相談に耳を傾け、本人に寄り添った訪問支援を行った。その結果、本人との信頼関係構築につながり、電話相談が増え、来所による面談も増えた。確実かつ迅速に課題を解決するため、同行支援も行い、一つずつ課題を解決していくことができた。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和3年度
相談件数	16
のべ対応件数	697

(単位：件)

対応内容	令和3年度
電話相談	342
訪問	127
面談	77
同行支援	40
関係機関との協議	111
計	697

④ 被保護者就労支援事業（市受託事業）

生活保護受給者を対象に、就労に向けた相談を行い、ハローワークや事業所見学に同行した。また、就労支援だけでなく、生活面においても相談や助言を行い、通院の同行なども行った。身体障害、精神障害を伴う場合は、障害者就業・生活支援センターと連携し、障がい者就労も検討し、施設見学に同行した。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和3年度	令和2年度
相談件数	2	1
のべ対応	31	31

(イ) 対応結果

(単位：件)

	令和3年度	令和2年度
常勤就労	0	0
パート就労	0	0
福祉的就労	0	0
計	0	0

ア 関係機関との会議

- ・ 令和3年度稼働能力判定会議

開催日：令和3年8月11日

出席：市福祉保健課・社協から5名が出席

- ・ 令和3年度被保護者就労支援打合せ会議
 新型コロナウイルス感染対策のため書面により実施
 ハローワーク尾鷲、尾鷲市、尾鷲市社会福祉協議会
- ・ 令和3年度紀北地域協議会就労部会
 8/26 第1回会議(場所：尾鷲市福祉保健センター)
 3/20 第2回会議(場所：オンライン会議)

(2) 生活資金貸付

① 生活福祉資金貸付相談

既存の生活福祉資金貸付事業に加えて、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により生活資金に悩む世帯を対象とした特例貸付を実施した。貸付相談により問題が顕在化した世帯に対して、自立相談支援機関と連携して相談援助を実施し、経済的自立に繋げた。

(ア) 令和3年度新規貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和3年度	令和2年度
福祉資金	緊急小口資金	2	1
新型コロナウイルス 特例貸付	緊急小口資金	16	30
	総合支援資金	12	35
計		30	66

(イ) 令和3年度完済件数

(単位：件)

資金種類		令和3年度	令和2年度
福祉資金	福祉費	0	1
	緊急小口資金	1	1
教育支援資金		0	2
計		1	4

(ウ) 令和3年度末時点貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和3年度	令和2年度
福祉資金	福祉費(住宅)	1	1
	障がい者自動車購入費	1	1
	技能習得費	1	1
	緊急小口資金	4	3
教育支援資金		11	11
新型コロナ	緊急小口資金	51	30
特例貸付	総合支援資金	46	35
計		115	82

※新型コロナ特例貸付の緊急小口資金には、三重県社会福祉協議会から移管された6件及び借受人死亡による償還免除1件を含む。

新型コロナ特例貸付の総合支援資金には、借受人死亡による償還免除1件を含む。

② 福祉金庫緊急貸付事業

ライフラインの停止など、緊急かつ一時的に生活資金が不足した世帯に対して資金を貸し付けた。それにより、最低限度の生活の維持を支援したほか、併せて相談援助を実施し生活再建に繋げた。

(単位：件)

種類	令和3年度	令和2年度
完済件数	7	6
新規貸付件数	5	4
償還免除件数	0	10

(ア) 令和3年度末時点貸付件数

(単位：件)

償還の状況	令和3年度	令和2年度
令和3年度末貸付件数	6	8
定期的に返済している方	0	3
不定期であるが、返済をしている方	2	0
令和3年度全く返済実績のない方	4	5

③ 借受人等関係者との関わり強化

新型コロナウイルスの影響により訪問や面会が制限された結果、すべての関係者と直接対面することはできなかった。代わりに電話による状況把握・信頼関係の構築に努めた。

(3) 緊急食料等支給事業

① 緊急的に支援が必要な困窮者世帯に対する食料等支給

- ・ 認定 NPO 法人セカンドハーベスト名古屋提供の食糧支援件数 36 件
- ・ 本会独自事業および生活協同組合コープみえ、カーブスイオン尾鷲店からの食料寄付を活用した支援件数 62 件
- ・ 夏休み子どもたちの食費負担軽減の為、ひとり親家庭と住民税非課税等世帯に対し、食料等支援件数（フードパントリー）36 件
必要な世帯への一助とすることができた。対象世帯とつながることができ、相談の入口としてつながりを作ることができた。

② 食料寄付の受付

- ・ 生活協同組合コープみえより、協定に基づき良品返品の商品（精米・食品など）の無償提供を受けた。
- ・ カーブスイオンおわせ店が、会員 200 名のうち約半数の方から集めた未開封食料の食料寄付（100.9 キロ）を受け付けた。
- ・ 福祉保健センター1F ロビーに常設型フードドライブ（8 月より）を設置し、社協職員や市民への食料品等の提供の呼びかけを行った結果、18 件の提供があった。常設型フードドライブが少しずつ知られるようになり、食料支援の一部として活用することができた。



3. 権利擁護事業

(1) 日常生活自立支援事業（おわせ日常生活自立支援センター）

① 利用者支援の実施

相談対応時にはその都度丁寧な説明を心掛け、本人や家族、関係機関等から情報収集を行ない、本人理解が深まるように努めた。また、利用者の方との信頼関係の構築を継続し、安心・信頼できる適切な金銭管理、書類等預かりサービスを実施した。

② 新規・困難ケースへの迅速な対応

利用者の方に合わせたサービス利用が早期にできるように取り組んだ。また、困難ケースについては、関係機関と連携し支援についての協議を重ね、慎重かつ迅速に対応した。

③ 関係機関との連携

地域包括支援センター、障がい者総合相談支援センター結及び関係機関と連携を図り、積極的な対応を心掛けた。

④ 専門員・推進員・生活支援員の資質向上

スキルアップに必要な研修や会議に参加することで資質向上に努めた。

⑤ 契約締結審査会への出席（令和3年度1回出席）

審査会にて諮る案件がある際には、Zoomを活用したオンラインにて参加をした。

⑥ 日常生活自立支援事業の啓発

本事業の周知が十分でないため、情報発信の方法を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は実施することができなかった。今後、研修会や集会等の行事の開催に合わせて広く周知を行なっていく。

令和3年度実績

(単位:件)

		認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	令和2年度
相談		170	126	389	236	921	789
契約	新規	0	0	0	2	2	5
	解約	0	0	1	2	3	3
	継続	7	4	6	2	19	20

・相談対応数が前年度より増加しており、どの区分の利用者の方も、電話等の対応や他機関との連携の場面が増えている。また、ケアマネジャー等の支援者から、事業についての問い合わせは度々あるが、本人が希望されず利用までに時間を要する本事業の特徴が表れていると考える。

(2) 後見支援事業

① 後見サポート事業

成年後見制度の利用に関する申立支援を3件行った。また、次の研修会に参加し職員の資質向上に努めた。

- (ア) 成年後見スキルアップ研修 令和3年11月25日 2名参加
- (イ) 中核機関の役割と実務研修 令和4年3月4日 2名参加

② 法人による後見人等受任事業

新たに1件の後見人を受任し、令和3年度末現在受任件数は2件となった。また、後見事務として次の事務を行った。

- (ア) 審判に基づく被後見人等の支援（身上監護・財産管理）
- (イ) 法人後見運営委員会の開催（令和3年度3回実施）
- (ウ) 内部監査の実施（年1回）
- (エ) 裁判所への定期的な事務報告

Ⅲ 高齢者支援課

地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

(1) 総合相談支援

① 総合相談窓口の設置

(ア) 高齢者の身近な相談窓口として、本人・家族の抱える課題に対して、利用できる制度やサービスを助言し、関係機関の紹介を行った。

(イ) 保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなどの専門職がチームとなり継続的に相談支援を行った。自宅への訪問や関係者からの情報提供を受け、本人の課題に対する支援計画を策定し、制度やサービスに繋がれた。また、継続的に本人の状況を確認するとともに評価を行った。

(単位：件)

内 訳	介護・日常生活	サービス利用	医療	所得	苦情	権利擁護	その他	合計
件数	510	147	20	9	6	13	18	723

(前年度相談受付件数：657件)

前年度は新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策にて相談件数が減少していたが、包括支援センターの周知とともに相談件数は年々増加傾向である。

② 地域包括支援センターの周知

「社協だより」への掲載 2回 前年度1回

「包括だより」の発行 2回 前年度2回

「社協ホームページ」の更新及び認知症ケアパス（簡易版）の掲載



③ 輪内ランチの運営

輪内高齢者サービスセンターに設置している輪内ランチで、地域の高齢者の福祉・介護の総合相談窓口として支援制度の紹介や情報提供を行った。

(2) 権利擁護業務

① 高齢者虐待への対応・防止

(ア) 高齢者虐待相談窓口の設置

尾鷲市福祉保健課と協働し、高齢者虐待ケースに対応するため、相談窓口を設置し、自宅訪問や関係者から情報を収集、コア会議による虐待の有無や緊急性を判断し、解消に向けた対応を行った。また、職員のスキルアップのため、オンライン研修に参加した。

(イ) 高齢者虐待相談の受理

受理件数 3 件（うち認定 1 件、前年度認定件数 7 件）

（単位：件）

内 訳	身体的	心理的	経済的	性的	介護放棄
件 数	2	2	2	0	2

前年度より総合相談の件数は増加したが、虐待通報は減少しており、年度による傾向は特になかった。

② 福祉制度の活用

(ア) 日常生活自立支援事業の活用

日常生活自立支援事業の利用調整（相談斡旋を含む）を行った。

相談件数 4 件

成年後見制度の活用

成年後見制度の利用援助（情報提供、申立支援、斡旋等）を行った。

相談件数 12 件 申立支援 1 件

今後は身寄りのない方の支援について、利用援助が必要となるケースが増加すると推測される。

(イ) 出前講座の開催

今年度の出前講座については、依頼がなく、開催していない。

（前年度開催回数：2 回）

③ 詐欺被害の防止

必要時に各関係機関との情報共有や連携を行っている。今年度は詐欺被害の相談はなかった。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

高齢者が安心して暮らせる地域を目指し、地域全体の医療・保健・介護分野の専門職から地域住民まで幅広いネットワークをつくり課題解決や調整を行った。

① 居宅介護支援事業所連絡会議の開催

居宅介護支援事業所連絡会議において研修会等を開催し、社会資源開発の

取り組みや、薬剤師による講話指導、在宅医療に関する知識を深め、関係機関と連携して高齢者を支援するケアマネジメント力の向上を図った。

(ア) 居宅支援事業所連絡会議

	開催日	参加人数	内 容
第1回	7月15日	23名	「生活支援体制整備事業の取り組みについて」 地域福祉課 山本 雄一 生活支援コーディネーター
第2回	11月11日	29名	「高齢者のお薬についてケアマネが知っておきたいこと」 講師：清川 嗣晃 薬剤師
第3回	2月3日	21名	「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」について 講師：矢崎 一 紀北広域連合地域包括ケア推進係
合計		73名	

(前年度開催回数：2回)



(第1回研修会)



(第2回研修会)

(イ) 居宅介護支援事業所ケアマネジャー支援

市内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーからの相談に対応した。

令和3年度 92件 (前年度 85件)

② 地域ケア会議・地域包括ケア会議の開催

(ア) 地域ケア会議の開催

個別困難事例を多職種が連携し検討することで、課題の共有と支援の方向性を確認し、ケアマネジメント支援を協働で行った。また、地域課題の把握に繋がった。 令和3年度 10件 (前年度 5件)

	開催月日	内 容	参加人数
第1回	4月19日	ケース検討 「地域との関わりがなく、入院中の方の支援について」	7名
第2回	6月2日	ケース検討 「認知症の母と精神疾患の娘に対する支援について」	8名
第3回	6月22日	ケース検討 「入院中の多問題を抱えている記憶喪失の高齢者についての支援について」	8名
第4回	7月1日	ケース検討 「地域での問題行動が多い高齢者への支援について」	6名
第5回	7月13日	ケース検討 「地域での問題行動が多い高齢者への支援について」②	6名
第6回	8月10日	ケース検討 「地域での問題行動が多い高齢者への支援について」③	6名
第7回	9月8日	ケース検討 「法人後見受任ケースの知的障害の方への支援について」	17名
第8回	11月17日	ケース検討 「法人後見受任ケースの知的障害の方への支援について」②	13名
第9回	2月15日	ケース検討 「地域での問題行動が多い高齢者への支援について」④	6名
第10回	3月29日	ケース検討 「認知症の母と精神疾患の娘に対する支援について」②	8名
合計			85名

(イ) 地域包括ケア会議の開催

今年度の全体会については、新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策により、実施を見送った。

(4) 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援

要支援者及び事業対象者が介護状態となることを予防し、または維持するために適切なケアマネジメントを行い、介護予防ケアプランの作成等必要な支援を行った。

① 要支援者への介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

介護保険を申請して要支援 1、2 と認定された方。

② 介護予防・生活支援サービス事業対象者への介護予防ケアマネジメント

事業に参加を希望された 65 歳以上の方で尾鷲市地域包括支援センター等が実施した基本チェックリストにより総合事業の対象となった方。

予防プラン作成および給付管理数

(単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
介護予防 支援	自機関	26	24	26	31	32	38	
	委託	30	30	32	28	27	27	
	小計	56	54	58	59	59	65	
介護予防 ケアマネ ジメント	自機関	95	96	90	91	93	91	
	委託	45	49	51	50	50	54	
	小計	140	145	141	141	143	145	
合計		196	199	199	200	202	210	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防 支援	自機関	39	45	44	46	48	52	451
	委託	26	23	23	23	22	20	311
	小計	65	68	67	69	70	72	762
介護予防 ケアマネ ジメント	自機関	97	93	95	92	83	95	1,111
	委託	51	47	49	46	39	39	570
	小計	148	140	144	138	122	134	1,681
合計		213	208	211	207	192	206	2,443

(前年度合計：2,184 件 前々年度合計 2,165 件)

毎月 180 名ほどの利用対象者を見込んでいたが、相談件数が増えたことにより、介護予防サービス利用件数も急増し、毎月 20 名以上、延べ件数にして 259 件の増加となった。

(5) 認知症施策の推進

認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、医療・介護と連携し、認知症高齢者に優しい地域づくりの実現に取り組んだ。

① 認知症初期集中支援チームの運営

(ア) 支援チームに関する普及活動

地域住民や関係機関・団体に対し、支援チームの役割や機能について広報活動や協力依頼を行った。

(イ) 認知症初期集中支援チーム員会議の開催

認知症専門医や医療・福祉の専門職がチームとなり、家族の同意のもと包括的・集中的に適切なケアを行った。

認知症に関する相談は74件で、昨年度(58件)の1.3倍となり、相談の中でも医療・介護サービスに繋がらない、特に緊急性が高い方、支援依頼の同意が得られた方を事業の対象とした。

初期集中支援チーム員会議による支援 3件 (前年度6件)

初期集中支援チーム員会議の開催 8件 (延べ回数)

訪問回数 23回 調整回数 44回

その他、初期集中支援チーム員が相談対応し、地域包括支援センターでの緊急対応の調整に移行した方 9件 (前年度14件)

相談対応後、早急に医療・施設に繋げるケースが増えており、相談に来た時点で中重度の症状がみられる方が増加傾向となっている。コロナ禍で、地域や家族との交流が減少したことが原因と推測される。

(ウ) 認知症初期集中検討委員会の参加 (年1回)

認知症初期集中支援チームの業務報告・ケース活動状況、認知症地域支援推進員の取り組み状況、今後の課題や予定について報告した。

② 認知症地域支援推進員の設置

(ア) 認知症ケアパスの活用

本人や家族が認知症について正しい知識を持ち、認知症の方への接し方や、受けられるサービスなどを取りまとめた「認知症ケアパス」を相談時などに活用した。

(イ) 認知症カフェ(こもれびカフェ)の運営

認知症の方やその家族、医療や介護の専門職、地域住民などが気軽に集う『認知症カフェ』を開催した。今年度に関しては、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため短時間での開催とした。

	場 所	開催日	参加人数
こもれば 카페	おわせ暮らしサポートセンター	4月22日	9名
		6月24日	7名
		12月8日	8名
	三重県立熊野古道センター	10月19日	7名
		12月20日	8名
		1月11日	8名
	尾鷲市福祉保健センター	10月26日	6名
		11月29日	6名
		12月16日	8名
合計			67名

和やかな雰囲気の中で、参加者がギターを披露し皆で歌い、紙芝居を利用した勉強会を行うなど、コミュニケーションを中心として楽しむことができた。



③ 認知症サポーター養成講座

(ア) 認知症サポーター養成講座

	開催日	参加人数	対象者
第1回	7月28日	1名	地域住民希望者
第2回	8月23日	2名	皇學館大学 実習生
第3回	12月4日	97名	尾鷲中学校1年生生徒
第4回	12月14日	5名	介護者の会 参加者
第5回	1月14日	5名	尾鷲社協職員 認サポ未受講者
合計		110名	

(前年度参加人数：15名)



(第3回養成講座)



(第4回養成講座)

ZOOMを使用したオンライン受講が出来るように環境整備を行った。

(イ) キッズサポーター養成講座

新型コロナウイルス感染症蔓延防止措置で、前年度に受講できなかった尾鷲中学2年生の講座は、今年度も3年生の授業予定が立たず受講できなかった。

(ウ) 認知症サポーターフォローアップ研修の開催

認知症サポーター養成講座受講者を対象として、外部講師による専門的・実働的な知識を深める研修を実施し、認知症の体験学習が好評を得た。

	開催日	参加人数	対象者
第1回	10月13日	14名	地域住民
第2回	11月18日	11名	地域住民
第3回(オンライン)	1月19日	19名	地域住民、県内在住者
合計		44名	



(エ) 認知症支えあいボランティア団体

ボランティア団体を結成し、啓発活動や認知症ケアについて学ぶ機会を設けた。オンラインを活用し、外部講師による研修を行った。

研修会にて積極的に意見を出し合いながら、『認知症カフェが自分の想いを出せる場所となり、ボランティア自身が楽しむこと』が大切と学びながら、実践の場面としてこもれびカフェ（認知症カフェ）にて活動を行った。

	内容	開催日	参加人数
打ち合わせ会	・ 認知症ボランティア立ち上げの目的について共有 ・ 事前チェックシートの実施	7月29日	7名
打ち合わせ会	・ 認知症の方を介護している家族の気持ち	8月26日	5名
オンライン研修	・ 地域による“見守り”と“監視”の違いについて ・ 他地区の認知症カフェの紹介	11月26日	7名
打ち合わせ会	・ 今後の活動についての検討	1月13日	6名



④ 認知症高齢者への支援

(ア) 尾鷲市高齢者等 SOS ネットワーク事業への協力

徘徊や行方不明になる恐れのある認知症高齢者の家族に対して、尾鷲市が実施する高齢者等 SOS ネットワーク事業への登録を促した。

行方不明者が発生した場合は、尾鷲市と連携し、協力団体とともに行方不明者捜索に協力した。

(イ) 認知症勉強会

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症蔓延防止にて計画は中止となった。

2. 任意事業

(1) 介護給付費等費用適正化事業

ケアプラン点検事業への参加は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため計画中止となった。

(2) 家族介護支援事業

要介護高齢者を介護する家族の精神的負担の軽減と介護者・介護経験者同士の情報の交換を目的とした交流会を開催し、お互いに割り切りや受容が深まり、開催日を増やしてほしいなどの要望が出ている。

介護者の会の開催

	開催日	参加人数	内 容
第1回	7月26日	7名	おしゃべり会（ケアラーアセスメント）
第2回	10月12日	3名	おしゃべり会（介護者の現状共有）
第3回	11月19日	5名	おしゃべり会（ハンドメイト）
第4回	12月14日	5名	認知症勉強会（認知症サポーター養成講座）
第5回	2月22日	中止	おしゃべり会
第6回	3月30日	6名	おしゃべり会（お花見会）
合計		26名	

（前年度参加人数：延べ15名）



(3) 福祉用具・住宅改修支援事業

① 福祉用具の利用支援

福祉用具の利用についての助言や購入支援を行った。

福祉用具購入支援者 21名 前年度 20名

② 住宅改修の利用支援

住宅改修に関する助言や理由書等の必要書類の作成を行った。

住宅改修利用支援 41名 前年度 20名

3. その他

(1) 各種研修会への参加

- 主任介護支援専門員研修への参加
- 地域包括支援センター職員初任者・専門職研修
- 「認知症初期集中支援チーム」チーム員研修への参加
- 「認知症地域支援推進員初任者」研修への参加
- 「認知症地域支援推進員現任者」研修への参加
- 「高齢者虐待対応」地域包括課題別研修への参加
- 「成年後見制度利用促進法における中核機関の役割と実務研修」への参加

(2) 各種会議への参加

① 地域密着型サービス運営推進会議

小規模特別養護老人ホーム運営推進会議

グループホーム運営推進会議

通所介護事業所運営推進会議

② その他会議への出席

- 地域包括支援センター運営協議会
- 東紀州地域医療構想調整会議
- 尾鷲市地域精神保健福祉危機対応ネットワーク会議（1回）
- 養護老人ホーム聖光園入所判定委員会
- 尾鷲市福祉保健課との打ち合わせ会議
- 在宅医療介護連携推進作業部会
- 認知症施策作業部会
- 介護予防・日常生活支援総合事業作業部会
- 生活支援体制整備協議会

IV 障がい支援課

紀北地域障がい者総合相談支援センター結

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1) 総合相談支援

住みなれた地域で安心した暮らしを継続し、障がいの有無にかかわらず、互いに人格や個性を尊重しあいながら共生する社会の実現という総合支援法の理念に基づいた相談支援を行った。また、地域での生活を継続するために、障害福祉サービスや地域支援事業などをライフステージに応じて利用できるよう支援を行った。

令和3年度の相談実人数は244人であった。支援内容は福祉サービスの利用に関する相談支援が多く、自分の希望する暮らしや意向を実現し住みなれた地域での生活を続けるため、必要なサービスについて知りたいと思う相談が多かった。

高齢化が進む中で、これからの生活について共に考え、これまで利用していなかったサービスについて知り、利用を検討する機会となった。

① 就労相談

就労に関する相談は直接、就業・生活支援センターに繋がることが多くなっており、地域生活支援事業での相談は減っている。すぐに就労に結びつかないケースや生活面での課題を抱えているケースについては、市町委託の基幹型支援センターと就業・生活支援センターそれぞれの担当が共同して支援を行ってきた。

② 社会参加・余暇活動相談

令和3年度も社会参加や余暇活動に関する相談支援は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて件数が減少しているが、コロナ禍の中でもできる活動はないかと当事者本人が模索する姿も見られている。

③ 暮らしの相談

ここ数年で圏域内に障がい者グループホーム（障害者共同生活援助サービス）が開設された事で、住み慣れた地域を離れることなく生活を送れ、地元の日中活

動にそのまま継続して参加する事が出来るようになったことにより、将来を見据えてグループホームを定期的に体験利用する方もおり、貴重な地域資源となっている。一方で、グループホームが定員に達し、必要な時に利用できない状況も出て来ている。今後も、グループホームへの支援を行い、地域での協力体制を強化していきたい。本人、家族ともに高齢化が進んでいる影響で、緊急時の相談を受けることも出てきている。現在は、地域のグループホームで対応してもらっている状況であるが、緊急時の対応はこれからの地域課題とも言える。

④ 家計経済の相談

金銭管理が上手くできず生活に支障が生じる相談ケースには、日常生活自立支援事業や生活相談事業と連携しながら支援を行った。独居の方や家族の協力が得られない方も増加しており、今後の権利擁護支援の体制も課題となる。

⑤ 障がいや病状理解の相談

障がいや病状の理解に関する支援では、訪問看護の事業所でこの地域の支援を行う事業所が新たにできたことにより、訪問看護事業所と連携して支援することで、本人や家族に対しての障がい理解の支援が充実してきている。障がいや病状の理解が進むことで、これまで入退院を繰り返してきた方が、地域での生活を継続できるようになってきている。

◇障がい別 年間相談者実数（児・者） (単位：人)

区分	実人員	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳 機能	その他
尾鷲市	129	21	3	60	40	3	0	5
紀北町	115	7	1	70	30	2	0	5
計	244	28	4	130	70	5	0	10

◇支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	電子 メール	関係 機関	個別支 援会議	その 他	計
尾鷲市	1,056	336	99	1,395	3	368	62	78	3,397
紀北町	989	109	46	1,195	1	240	74	49	2,703
計	2,045	445	145	2,590	4	608	136	127	6,100

◇支援内容（延べ件数）

（単位：件）

内容	延べ件数	尾鷲市	紀北町
福祉サービスの利用に関する支援	3,735	1,979	1,756
障がいや症状の理解に関する支援	422	275	147
健康・医療に関する支援	435	254	181
不安の解消・情緒安定に関する支援	328	187	141
保育・教育に関する支援	82	50	32
家族関係・人間関係に関する支援	171	85	86
家計・経済に関する支援	218	148	70
生活技術に関する支援	71	45	26
就労に関する支援	163	89	74
社会参加・余暇活動に関する支援	261	189	72
権利擁護に関する支援	14	10	4
その他	200	86	114
計	6,100	3,397	2,703

（２）権利擁護のための必要な援助

市町委託の基幹型支援センターのすべての職員が虐待防止に関する研修を受け、虐待防止の窓口として、障がい者の個性や人格を尊重し、権利を擁護できるよう活動を行った。相談の際には、行政や関係機関とも連携を取りながら、そのような行動に至った経緯の分析を行い、本人を取り巻く環境へのアプローチを行った。

（３）地域における相談支援体制強化と人材育成

相談支援専門員の研修受講者の地域実習・演習の受け入れを行い、地域の支援者の育成に努めた。新規のサービス利用の相談や相談支援専門員から相談を受けたケースに対しては、基幹型支援センターの職員が訪問や面談に同行し、相談支援専門員に対しての支援を行った。また、相談支援事業所の伝達会議に参加し、ケース対応についての相談を受けたり、障がいに対する理解や社会資源、公的制度等について勉強会を行い、相談支援専門員のスキルアップを図った。

（４）紀北地域協議会の運営支援

地域生活支援拠点部会、こころ部会、就労部会の３部会で構成し、それぞれ年間テーマを決め活動を行ったが、コロナ禍の影響でなかなか事業所が集まる活動は

実施できず、予定した会議は実施できなかった。来年度はオンラインを活用する等の対応を検討する。

令和3年度 紀北地域協議会部会活動

部会名	取組内容
地域生活支援拠点	テーマ：「紀北地域における地域生活支援拠点の整備に向けて」 緊急時の受入れ、体験の機会の場合、相談支援等の拠点機能を担ってもらおう施設・事業所へのアプローチを検討したが、今年度は会議の開催はできなかった。
こころ部会	テーマ：「地域移行・地域定着について」 精神科病院・入所施設からの地域への移行を支援する部会であるが、今年度は会議の開催はできなかった。
就労部会	テーマ：「福祉的就労の場の確保、就労サポート・定着支援、多様な就労形態の創出について」 ○コロナ禍における福祉就労支援事業所の現状について話し合う。支援施設の工賃アップ及び作業量の確保のために、福祉分野以外の様々な分野との連携が求められ、現在、林福連携に取り組んでいる。 ○定員に達している事業所もあり、希望する日中活動場所への通所が難しくなっているが、令和4年4月より新しく事業所が開設予定である。

(5) ピアサポーター活動支援

地域での生活をより豊かなものとするために、社会との接点や色々な体験の機会を持てるよう「共通の経験と関心をもつ仲間同士の相互支援」を基本とするピア活動支援に取り組んだ。尾鷲市林町会館と紀北町東長島公民館で、月2回行う「すずらんサロン（日中の居場所作り）」の活動を行った。昨年度に引き続き、コロナウイルス感染予防のため、飲食を伴う活動は中止とし、趣味余暇活動の幅を広げる創作活動を行った。延べ人数で尾鷲市27人、紀北町14人、合計で41人の参加があった。一昨年まで行っていた昼食作りや外出活動ができない中で、どうすれば今までのような活動ができるのか、できないならより楽しめる活動はないかと自分たちで考えようとする姿も見られるようになってきている。

また、尾鷲市身体障がい者互助会の活動支援については、令和3年度も会員が集

まっでの総会、研修会、外出行事は開催出来なかった。会員宅を訪問し健康を確認すると共に、コロナ感染・熱中症予防対策品として、除菌シート、マスク、ポカリスエット等の配布を行った。



2. 障害者就業・生活支援センター事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業では、緊急宣言や重点措置等が発出される中、合間をぬって企業開拓や訪問期間が空いている企業を再訪問し、障がい者の雇用の促進に努め、実習の受け入れ先の開拓を行った。その結果、一般就労14人、職場実習21件の実績となり、定着率は87.5%となった。

支援対象障害者の状況として、ハローワーク担当者の積極的な声かけもあり、新規登録者は21人となった。今年度の特色として、身体障がいの方の増加や難病を抱える方からの相談も3件あった。主な相談内容として、就労相談、定着支援、日常生活の相談が挙げられるが、コロナ禍が長期化している関係か日常生活の相談が前年度と比較して約3倍の件数となった。交流会等については、在職者を対象とした交流会と就労を目指す方を対象としたピアサポート活動を計3回開催し、交流を図った。

事業主に対する支援の実施状況として、訪問や電話が中心ではあるが、ケース会議ではオンラインでの支援も実施した。関係機関との連携状況では、ハローワークや特別支援学校と連携し情報共有を図り、三重障害者職業センターとは職業評価の依頼や研修会での講師依頼も行った。新たな事業である地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施について、開催が日程通りに進まず、先送りとなり年度末開催となってしまったが、オンラインでの開催を取り入れ、4回開催することが出来た。会議・研修等はほぼオンラインになり、移動の面ではタイムロスが無くなり時間の有効活用に繋がってはいるが、議題以外の話題で参加者との交流が無くなり、ネットワーク作りが希薄になりつつあると感じている。

① 就労登録者数 (単位：人)

登録者数	新規	継続	合計
	21	176	197
内訳 身体障がい	7	30	37
知的障がい	1	86	87
精神障がい	10	55	65
その他	3	5	8

② 就労実績 (単位：人)

障がい種別 1週間の 勤務時間数	障がい種別				計
	身体	知的	精神	その他（難病）	
一般（30時間以上）	4	2	2	1	9
20時間以上 30時間 未満	1	1	0	1	3
20時間未満	0	1	1	0	2
計	5	4	3	2	14

③ 市町別一般就労実績 (単位：人)

区分	合計	(内訳)			
		身体	知的	精神	その他（難病）
内 尾鷲市	9	3	3	3	0
内 紀北町	5	2	1	0	2
圏域合計	14	5	4	3	2

④ 相談支援件数（内容別） (単位：件)

内 容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	98	283	281	24	686
職場定着の為の相談支援	36	307	231	11	585
日常生活に関する相談支援	44	211	203	4	462
就業と生活に関する相談支援	7	9	11	1	28
計	185	810	726	40	1,761

⑤相談支援件数（手段別） （単位：件）

来所	323
オンライン・電話・電子メール等	808
職場訪問（定着支援、職場実習支援を含む）	272
家庭・利用施設への訪問	86
その他（ハローワークへの同行訪問、医療機関への同行、年金事務所への同行等）	272
計	1,761

◇在職者交流会・ピアサポート活動 研修会 （単位：人）

開催日	内容	参加人数
令和3年10月30日	在職者交流会 「防災について学ぼう」	11
令和3年11月27日	ピアサポート活動 「だいたい食堂見学ツアー」	4
令和4年3月19日	在職者交流会 「みかん畑の歴史を学ぼう」	7



◇地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

開催日	内容
令和4年3月16日	水福連携に係る説明会
令和4年3月17日	職場定着のために ～職場での合理的配慮を考える～
令和4年3月23日	結・Colors 交流会
令和4年3月29日	紀北管内の雇用の現状

3. 障がい者社会参加促進事業及び生活支援事業

(1) 生活訓練事業

視覚障がい者の方に対して、歩行訓練や福祉機器・点字の指導を行う。

開催 12 回 視覚障がい者 3 人 延べ参加人数 25 人

※広報活動により、今年度は新規利用者も 1 名増加した。

(2) 点字・声の広報発行事業

視覚障がい者の方に対して、音訳ボランティアによる広報おわせ録音・発送。

実施 12 回 視覚障がい者 3 人 延べ配布人数 36 人

(3) フラワーアレンジ教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。講師 池田比早子氏

開催 7 回 延べ参加人数 100 人（尾鷲市 76 人 紀北町 24 人）

※三重県まん延防止等重点措置期間を除く開催月には、感染防止対策を十分と
り実施した。

(4) 音楽教室

コロナ感染防止の為 開催中止

（合唱・楽器演奏・リズム遊びを行う活動である為）

(5) 尾鷲市ふれあいスポレク祭

コロナ感染防止の為 開催中止

（障がい者・小学生・ボランティアが集まったの交流行事である為）

(6) その他

紀北町生活交流会・ふれあいスポーツ大会、くろしお学園おわせ分校学習

発表会・運動会、紀北作業所夕涼み会は、開催中止等で参加出来ず。

4. 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成・モニタリングを行った。意思決定支援の視点を持ち、ご本人の思いを引き出し、サービス利用だけでなく、これからの生活についても一緒に考えながら支援を行う。コロナ禍の影響で面会制限もあり、ご本人にお会いする事が出来なかったり、事業所見学・体験利用ができないケース

も多かった。リモートでカンファレンスに参加する等の対応を行ったが、事業所とご本人が直接お会いできないことから、サービス調整までに時間がかかるケースが多かった。

① 特定相談支援 障害児相談支援 (単位：件)

	利用計画	継続支援
尾鷲市	101	284
紀北町	91	241
圏域外	11	32
計	203	557

② 支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話等 相談	その他	計
尾鷲市	748	88	16	706	98	1,656
紀北町	585	27	8	692	61	1,373
計	1,333	115	24	1,398	159	3,029

V 居宅介護支援課

居宅介護支援事業所

介護保険の指定居宅介護支援事業所として、居宅での介護サービスやその他の福祉サービス、保健医療サービスが適切に利用できるよう、利用者自身の立場でその有する能力に応じて、自立した生活を送るための公正中立な支援を行った。

1. 職員体制

主任介護支援専門員 5 名 介護支援専門員 1 名

2. 業務内容

(1) 利用者、家族の在宅生活、在宅介護の支援

利用者、家族の心身の状況や、おかれている環境に応じてニーズを把握し、最善のケアプランの提案に努めた。

(2) 医療との連絡、連携

退院時には、医師、病院関係者とのカンファレンスに参加し、円滑に在宅生活に復帰できるように支援を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染予防対策により、入院中の本人には面会することができなかつたため、情報を基にサービス導入に努めた。

(3) サービス提供機関との連携

新型コロナウイルス感染予防のため、各サービス事業所への訪問ができないことも多く、電話や書面にてサービス事業所と連携を図り、利用者の情報共有に努めた。

(4) 新規利用者の確保

(単位：人)

	令和 3 年度	令和 2 年度
居宅新規	45	62
居宅終了	57	68
※内訳 (死亡)	26	20
(入所)	20	25
(移動)	11	23
予防給付 新規	2	1

3. 月別請求額

◇居宅介護

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	174	180	171	166	165	165
収入額	2,736,880	2,840,150	2,688,300	2,629,220	2,591,320	2,612,220

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
161	169	168	162	163	167	2,011
2,529,330	2,650,180	2,628,920	2,530,930	2,539,040	2,626,080	31,602,570

(前年度) 利用者人数 2,167人 収入額 33,966千円

◇介護予防支援費

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	5	4	6	5	5	5
収入額	21,950	17,560	31,840	21,950	21,950	21,950

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	4	4	4	4	4	54
17,520	17,520	17,520	17,520	17,520	17,520	242,320

(前年度) 利用者人数 50人 収入額 220千円

◇介護予防ケアマネジメント費

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	2	2	3	4	3	8
収入額	8,780	8,780	18,670	23,060	13,170	40,620

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	5	5	5	5	5	52
27,400	21,900	21,900	21,900	21,900	21,900	249,980

(前年度) 利用者人数 35人 収入額 150千円

4. 受託事業

(1) ケアプラン事業への参加(紀北広域連合主催)

新型コロナ感染予防対策により、令和3年度も中止になった。

(2) 介護保険要介護認定調査 4件

市外、県外保険者より委託を受け、認定調査の資格を持った職員が認定調査を行った。

5. ケアマネジメントの質の向上を図る

(1) 居宅事務所内でのミーティングを実施

基本スキルの再確認、サービス提供にあたっての留意事項
困難事例ケース検討会等、週1回程度行った。

(2) 居宅介護支援連絡会への参加

介護支援専門員としての意識向上、援助技術のスキルアップを図った。

VI 訪問介護事業課

訪問介護事業所

ホームヘルパーが自宅を訪問し、「いつまでも自宅で過ごしたい」との思いに応えられるよう、日常生活上必要な支援を行った。

1. 訪問介護・総合事業訪問型サービス(介護保険)

介護等が必要な方を対象に、ホームヘルパーが自宅を訪問し、身体介護や生活援助のサービスを提供した。要介護者の利用人数は減少したが、要支援者の利用人数は増加した。全体（要支援者及び要介護者）での収入額は、ヘルパーの人材不足により、新規利用者の確保が困難であったことや、要介護者の施設入所により減収となった。

(1) サービス内容

- 身体介護：食事介助、通院介助、入浴介助、排泄介助、体位変換
その他の身体介護
- 生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- 身体介護と生活援助の組み合わせ
- 通院等のための乗車または降車の介助

◇訪問介護月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	109	102	104	104	104	96
収入額	3,792,117	3,690,218	3,828,879	4,103,862	3,836,360	3,613,539

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
95	94	92	92	86	87	1,165
3,431,860	3,673,174	3,567,266	3,498,463	3,266,217	3,635,143	43,937,098

(前年度) 利用者人数 1,199人 収入額 46,207千円

◇総合事業訪問型サービス月別実績

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	26	29	28	29	28	29
収入額	344,920	360,000	364,060	373,270	345,540	365,220

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29	26	32	32	28	39	355
364,580	343,880	425,540	371,950	308,030	300,410	4,267,400

(前年度) 利用者人数 292人 収入額 3,818千円

2. 障害者総合支援事業

障害者総合支援法に基づき、居宅介護、重度訪問介護、移動支援の各障害福祉サービスを提供した。新型コロナウイルス感染症による影響は続いているが、徐々に利用者が外出する機会が増えており、利用人数、収入ともに増加となった。

◇月別単位数（実績月） （単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	36	34	34	34	30	29
収入額	1,419,320	1,322,720	1,497,300	1,410,070	1,321,830	1,304,240

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
35	33	34	32	33	33	397
1,437,380	1,400,880	1,481,520	1,345,980	1,211,190	1,314,386	16,466,816

（前年度） 利用者人数 382 人 収入額 14,969 千円

3. 生活支援サービス「あんしん」（保険外サービス）と一般乗用旅客自動車運送事業

生活支援サービス「あんしん」を介護保険外事業の一環として行った。また、ケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を、一般乗用旅客自動車運送事業として実施した。

◇あんしん月別実績 （単位：人・円）

利用人数	17	20	18	14	17	18
収入額	46,700	48,500	62,900	50,200	37,600	46,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15	16	14	15	13	12	189
44,200	38,900	52,200	48,800	36,700	48,800	562,100

（前年度） 利用者人数 211 人 収入額 605 千円

◇運行利用料月別実績 （単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	97	89	90	86	87	73
収入額	226,360	224,000	247,250	225,500	223,200	196,260

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
84	78	68	74	78	71	975
195,300	204,900	210,070	168,430	174,700	188,350	2,484,320

（前年度） 利用者人数 1,003 人 収入額 2,539 千円

要介護の利用者の減少により、通院等が減少したことで収入が減収となった。

4. 令和3年度の重点的な取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染症感染防止対策

感染症対策の3原則である「ウイルスを持ち込まない、広げない、持ち出さない」を合言葉に、動画による研修会やマニュアルの見直しなどを行った。

(2) 職員人材育成

①同行援護従事者講座 一般課程1名、応用課程1名

視覚障がい者の移動介助に従事するために必要な一般課程講習を受講し、サービス提供責任者においては応用課程を受講することで、業務に従事できる職員を増強し、新規利用者へのサービス提供を可能とした。

②福祉有償運送運転者講習、セダン等運転者講習 2名

訪問介護等利用者を乗車させて通院する場合に、運転者として従事するために必要な福祉有償運送運転者講習を受講し、運転手として業務が可能となった。

(3) 各チーム必要に応じた自主的な研修・研究

日々のケースの中で感じる『ヒヤリハット』から必要性を感じたことを、サービス提供責任者を中心に各チームで研修や研究を行った。

実際のケースを検討し、利用者の身体状況に基づいた介護技術を確認することで、利用者の抱える課題をチームで共有し、根拠に基づく介護の実践に繋がった。



(車いすけん引補助装置を使った階段移動)

VII 訪問入浴事業課

訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴（介護保険）

市内唯一の訪問入浴事業所として、看護師、介護職員、運転手がチームとなり、利用者の身体状況に応じた安全で快適な入浴サービスを提供した。

週に複数回利用する新規利用者が増加し、紀北町へのサービス提供区域の拡大も行ったことで、収入が大幅に増収となった。

(1) サービス内容

- ① 看護師による健康チェック
- ② 衣服の着脱介助
- ③ 浴槽への安全な移動介助
- ④ 入浴介助
- ⑤ 在宅介護相談



(2) 事業効果

- ① 寝たきり状態のため褥瘡が悪化していた利用者が、訪問入浴を利用することで褥瘡が改善した。
- ② 身体状況や生活環境に課題を抱える依頼でも、事前にシミュレーションを行うことで、自宅での安全な入浴サービスを提供できた。

◇訪問入浴介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	9	9	11	11	12	11
収入額	669,320	653,980	800,640	816,340	949,520	870,830

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	9	12	12	9	14	131
913,980	773,190	988,600	925,690	855,860	1,214,529	10,432,479

（前年度） 利用者人数 124人 収入額 6,588千円

VIII 尾鷲通所介護事業課

尾鷲社協デイサービスセンターいきいき

1. 地域密着型通所介護・総合事業

利用者が可能な限り、住み慣れた自宅でその人らしい自立生活を営むことが出来るよう利用者、家族の意向を尊重しながら楽しく通所することで、心身機能の維持・運動機能の向上を目的に提供した。半日ならではの特色を生かし、短時間で楽しめるデイサービスとしての役割を果たせるよう努力した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、要介護利用者の人数は増加するものの利用回数が減ったことから収入が減少した。

(1) サービス内容

- ① 送迎サービス・バイタルチェック
 - ② 脳トレ（パワーポイント使用し、トンチ問題や虫食い問題等全 100 種類以上）
 - ③ 呼吸体操・集団体操・口腔体操・レクリエーション
（呼吸体操・ストレッチ・タオル体操・ボール運動・セラバンド運動・有酸素運動・重心移動運動・脳トレ交えた手遊び等）
 - ④ 身体の介助・支援（移動介助・見守りなど）
 - ⑤ 日常生活の相談・助言
 - ⑥ 入浴サービス
 - ⑦ 足浴サービス
 - ⑧ 個別運動器機能向上サービス
（作業療法士による運動メニュー作成）
- ※⑥ ⑦ ⑧に関しては選択的サービス



（ストレッチ体操の様子）

◇地域密着型通所介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	19	20	19	24	22	21
収入額	763,400	641,590	760,620	812,700	648,090	689,730

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20	22	23	23	21	21	255
731,630	764,660	768,400	718,990	683,480	784,580	8,767,870

（前年度） 利用者人数 241人 収入額 9,222千円

◇総合事業 月別実績

(単位：人・円)

利用人数	12	11	11	10	11	11
収入額	373,310	327,930	309,200	292,430	327,810	337,820

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	11	10	9	8	8	123
314,120	320,780	300,800	265,440	220,090	218,140	3,607,870

(前年度) 利用者人数 157人 収入額 4,461千円

2. 一般介護予防事業(受託事業)

(1) 一般介護予防教室

尾鷲市から委託を受け、市内在住の65才以上の方を対象とした介護予防の為の教室で、脳トレやレクリエーション、運動等を指導・実践した。

(8月9月2月と3月の一部については、まん延防止等重点措置のため休止)

(5月7月については感染防止のため、委託事業の休止が決定された。)

新型コロナウイルス蔓延防止対策のため、事業を休止したがコロナ禍の中でも、自宅でできる体操を指導するなど、介護予防に努めた。

(単位：回・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	16	7	16	7	0	0
収入額	400,000	175,000	400,000	175,000	0	0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16	17	15	10	0	13	117
400,000	425,000	375,000	250,000	0	325,000	2,925,000

(前年度) 実施回数 127回 収入額 3,175千円

3. その他

(1) 地域密着型運営推進会議

(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、年2回開催予定が中止となる。)

(2) いきいきクリスマス会の開催

(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、開催が中止となる。)

(3) 消火訓練・避難訓練の実施

デイサービス及び一般介護予教室の実施中に非常災害が発生したことを想定し、避難訓練を実施した。他部署から職員が救援を行うなど、災害時においても利用者の安全確保を出来るように検証した。



令和3年11月24日（火災避難訓練）



令和4年3月29日（地震津波訓練）

Ⅸ. 輪内高齢者サービスセンター

1. 輪内デイサービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉事業の向上を図るため、次のような事業を行った。

①募金事業の窓口として事業を実施

5月 日赤募金 10月 共同募金

②社協相談窓口業務として地域住民の方から相談を受け、市や介護保険関係事業所との連携を図った

2. 輪内地区食の自立支援事業（委託事業）

生活支援型配食サービスとして、週3回（火、木、土）、食事を作ることが困難な65歳以上の高齢者の方を対象に、食事内容の検討及び調理を行い各家庭へ配食した。

対象地区	輪内地域 (梶賀、曾根、賀田、古江、三木里、三木浦)
登録者数	27名
延べ配食数	3,253食
事業費	2,005,350円
(うち市補助分)	(704,150円)

地区別登録者内訳

(梶賀2、曾根3、賀田8、古江11、三木里1、三木浦2)

3. 輪内地区あったか弁当事業（自主事業）

市の配食サービスの対象外の住民に、自主事業として年間267食の配食サービスを実施し、食事を作ることが困難な方々の負担軽減に協力することができた。

4. 地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業、障がい者通所介護

自立した日常生活を送ることを目標として、要支援、要介護、障がい者の方を対象に、日常生活上の世話や機能訓練、社会とのつながりを持つ意欲を高めるという目的を持ち、利用者の社会的孤立感を解消するとともに、介護をしているご家族の負担軽減を図るため、通所介護を実施した。



《サービス内容》

- ・入浴サービス（機械浴、一人浴、一般浴）
- ・送迎サービス
- ・生活指導（健康チェック、音楽鑑賞、レクリエーション、創作活動）
- ・食事の提供

（月別実績）

【地域密着型通所介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	29	31	29	29	25	24
収入額	2,075,391	2,071,256	1,879,173	1,884,719	1,766,111	1,595,989

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	27	26	27	25	25	27	324
収入額	1,647,031	1,730,929	1,586,159	1,507,878	1,525,977	1,589,787	20,860,400

【介護予防・日常生活支援総合事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	4	3	2	2	2	1
収入額	124,245	105,921	70,614	70,614	70,614	35,307

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	3	3	5	7	6	7	45
収入額	78,759	105,813	142,425	203,850	177,696	212,967	1,398,825

【障がい通所介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用件数	1	1	1	1	1	1
収入額	28,970	36,210	28,970	28,970	21,730	28,970

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	1	1	1	1	1	1	12
収入額	36,170	28,940	21,700	28,940	28,940	28,940	347,450

(前年度)	利用件数	収入額
地域密着型通所介護	309名	22,541千円
介護予防通所介護	68名	1,946千円
障がい者通所介護	12名	364千円

5. 一般介護予防事業

高齢化が急速に進む中、要介護・要支援の認定がされていない65歳以上の高齢者を対象とした通所型一般介護予防事業を尾鷲市より受託し、運動機能向上や閉じこもり、認知症等の予防事業を週3回、年間116回実施し、地域の高齢者の介護予防活動の実施と普及啓発に努めた。

(月別請求額)

【一般介護予防事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	16	7	14	6	0	0
収入額	400,000	175,000	350,000	150,000	0	0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17	16	16	10	0	14	116
425,000	400,000	400,000	250,000	0	350,000	2,900,000

(前年度) 開催数 123回
収入額 3,075千円